



# 音楽の持つ力を 信じて

株式会社松栄堂楽器  
代表取締役社長 伊藤 健太郎 さん

岐阜市神田町に本店を置く株式会社松栄堂楽器。楽器販売の他、音楽教室やピアノの調律、楽器の修理など音楽に関する様々な事業を岐阜県内二十二店舗で繰り広げています。

創業は大正七年。百年を超える老舗の六代目である伊藤健太郎さんにお話を伺いました。

## 岐阜の街に音楽の文化を

明治七年生まれの初代伊藤栄治さんが育った当時、日本はまさに「文明開化」。西洋文明を取り入れて大きく変わり始めた時代でした。音楽の世界においても、国産のピアノやオルガンが作られ、レコードの生産も始まるなど、西洋の音が身近になりつつある時代でした。そんな中で、栄治さんも音楽の世界に惹かれていき「音楽の勉強がしたい」という夢を描くようになりました。

そして二十二歳の時、夢をあきらめきれず、働いていた小学校を辞め、東京音楽学校（現東京藝術大学）で学び直し、卒業後は岐阜中学校（現県立岐阜高校）で念願の音楽教師となり、校歌の作曲も手掛けました。更に音楽の素晴らしさをもっと広めたいと開いたのが、洋楽器専門店「松栄堂楽器」です。店の名前はバイオリンとピアノを得意としていた栄治さんが大正二年に立ち上げた演奏団体「松風会」の「松」と栄治さんの名前を「栄」をそれぞれとって「松栄堂」と名付けました。

店にはたちまち多くの音楽好きが集い、日々音楽談議に花を咲かせるようになりました。

これが大正七年、栄治さんが「音楽の持つ力」によってもたらした、岐阜の音楽の「文明開化」でした。

## 全ては私にバトンを渡すために

三代目であった父の孝司さんは、健太郎さんが小学六年生の時に病気で急逝しました。そのため当時会長を務めていた祖父の孝太郎さんが再度社長に就任しましたが、実務は全て母の敦子さんが担うことになりました。孝太郎さんが亡くなった後は敦子さんが社長に就任し、名実ともに松栄堂楽器を切り盛りしました。

敦子さんが社長時代に、すでに右腕へと成長した健太郎さんと力を注いだのが音楽教室、特に「大人の音楽教室」の運営でした。少子化のみならず人口全体が減少する中、ターゲットを日中の時間に余裕ができた「大人」に焦点をあてた教室は、子どもが大きくなり自分の時間が持てるようになった、幼少の頃やりたくても出来なかった、子どものレッスンを見て自分もやってみたいとなったなど、様々な理由から「大人の習い事」として大人気となりました。

敦子さんが社長に就任した当時、社長業は決して順調ではありませんでした。その頃、女性社長は全国的にまだまだ少なく、一身に受ける世間の荒波は相当な激しさでした。次々と苦難が襲いかかる中、健太郎さんは家業が忙しくなった敦子さんに対し、寂しい思いから反発した時期もあったと振り返ります。しかし、それも束の間。健太郎さんは、敦子さんが一切の泣き言も愚痴も言わず「松栄堂楽器」とい

う看板、従業員、お客様、そして何より家族のために、一生懸命に家業に向かう姿を見て「家業を継ぐ」と決意を固めました。大学卒業後はヤマハに就職。三年間の修業を経て松栄堂楽器に入りました。

かつて、敦子さんは「自分には経営に関して教える術が何も無い。息子には時間をかけて学んできてほしい」と、常々気にかけていました。

しかし健太郎さんは「看板を守って戦っている母の後ろ姿、その姿こそが自分の教科書。子どもの頃から見てきた母の生き様全てが、私が一人前の経営者になるための何よりの手本だと思っていますし、心から感謝しています」と、語ります。

その後も「大人の音楽教室」では、数多くの音楽愛好家が日々学び、今では県内の教室全体でおよそ四五〇〇名の老若男女が在籍し、「音楽の持つ力」によって豊かな時間を過ごしています。

そして敦子さんと健太郎さんが手塩にかけた「大人の音楽教室」は、いつしか社の柱の事業となり、平成十八年、敦子さんは健太郎さんへと全経営のバトンを繋ぎました。

## コロナ禍において

かつてない危機を迎えたのは、コロナショックでした。三か月間の全教室の休講、店舗や営業の自粛により売り上げはほぼ無くなってしまいました。不安をかかえた毎日が続きましたが、再開に向けてスタッフ全員で感染予防対策に最善を尽くしました。楽器によっては消毒液の成分が合わないといった個々に配慮が必要なものも多く、細心の注意を図りながらの作業が続きました。

そんな努力の末、自粛解除とともに全教室を一齐に再開。教室には沢山の生徒の笑顔が溢れました。

「生徒がちゃんと戻ってきてくれるのか、私も講師もスタッフも皆ほんとうに心配で、まずはほっとした瞬間でした」しかし、コロナ前のように戻っていかないのが現状でした。感染を心配する家族の反対、レッスン休講期間に気

力をなくした、YouTubeなどの動画配信などで集まってレッスンをする必要を感じなくなってしまうなど、継続されない理由は様々でした。

そんな中、嬉しい声も届きました。

「『ここにきてみんなと歌うことだけが人生の楽しみだ』『ここで先生や仲間と一緒に楽器を演奏すると、明日また頑張ろうという気持ちになれる』などと、笑顔で話してくださる生徒さんたちもたくさんいらっしゃいました。これからも、そんな声に真摯に応えていきたいと思っています」

健太郎さんは「音楽で世の中を変えたいことは出来ないかもしれないが、人の気持ちや生き方を変えることは出来る」と言います。そんな「音楽の持つ力」を信じていこうと、コロナ禍で改めて思い返すことが出来ました。

## 岐阜の街を音楽の街に

「日本の楽器演奏人口は約十%。この狭いマーケットの中で、どのようにして一人でも多くの人が楽器に興味を持ち演奏意欲を持てるようにしていくか、いかに本物のよさを伝えていけるか、常に考えています」

迎り着いたひとつが「GIFUピアノ」。これは松栄堂楽器が、令和元年十月から県内の駅構内や商業施設などさまざまな場所に期間限定で設置しているもので、ストリートピアノとして多くの方々々に弾かれ、聴かれ、街のにぎわいに潤いを与えています。また、岐阜市役所の新庁舎に寄贈したグランドピアノも、誰でも自由に弾けるストリートピアノとして人気を集めています。

「気が付いたら、『岐阜って音楽に触れている人がなぜか多いよね』といった声が増えてくるようになったら嬉しいなと思っています。年齢やジャンルを超えた沢山の人が、楽器を演奏して、音楽を楽しんで、笑顔で生き生きと暮らしていける、そんな岐阜の街になるといいなと思っています」

いつしかそんな「音楽の持つ力」が、岐阜の街中を彩っていくと信じて、これからも一つ一つ、音楽の種をまいていきます。



株式会社松栄堂楽器  
所在地 岐阜市神田町1-8-3  
TEL 058-265-0481



「GIFUピアノ」  
音楽をもっと身近にという願いが込められた松栄堂版ストリートピアノ。加納高校の生徒さんたちが岐阜をモチーフに長良川や鶴岡を描きました。